

令和 4 年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立喜連西小学校

令和 5 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安心・安全な教育】

前教育振興基本計画（以下＝前計画）を踏まえた【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】での中期目標である「規範意識」「生命の尊重」「仲間づくり」について、いずれも目標を達成した。また、令和3年度全市共通目標である「いじめの解消」「規範意識」「暴力行為」「不登校」について、いずれも目標を達成した。

それらの目標達成の主因は、子どもの自己肯定感の高まりを重視した「チーム喜連西」として地域・教職員それぞれの持ち味を生かして教育活動を行ってきた成果と言える。平成30年度より大阪教育大学教職大学院との協働研究『エビデンス・ベースの学校改革』を実践し「3つの喜連西愛」として児童の行動目標を設定し、教職員全員が共通理解して学業支援と行動支援を継続して取り組んだ。また、生活指導、いじめ対策の定期的な会合においても自己肯定感に関連した情報共有を行い、全教職員による指導を継続した。それらの結果、互いを支え認め合える集団を育てることができた。

自己肯定感の高まりを重視し、互いを支え認め合える集団の育成を継続していくことが、安心・安全な教育を推進する要諦と考えている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

前計画を踏まえた【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】での中期目標である「わかる楽しさを味わえる授業」「深め広げる話し合い活動」「生活習慣」「運動志向」について、いずれも目標を達成した。令和3年度全市共通目標である経年調査における相対的な数値については目標達成できなかったが、課題とした運動は記録を更新できた。

それら目標達成の主因は、子どもの主体性を重視した指導の成果と言える。令和3年度では、子どもの実態を踏まえた授業改善を推進するために、算数科を中心とした指導法の研究、一人一授業（全教員が公開授業を実施）の取り組み等を行った。また、コロナ禍における子どもの保健指導、給食指導、体育指導等に注力し、子どもの健康に対する意識を高めた。それらの結果、子どもの学力向上への意欲を高め、健康に関する基本的な生活習慣、体力を向上させることができた。

子どもの学力向上に向けて主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と、健康に関する意識を高める保健指導、給食指導、体育指導等の継続と工夫が課題である。

【学びを支える教育環境の充実】

ICTの活用について、本校では大阪市の方針に基づき段階的に導入し、その有効活用を図ってきている。令和2年度には、全学級において大型モニターを使用したデジタル教材の活用ができた。令和3年度には一人一台の学習者用端末の導入を円滑に推進した。同年1月には、子どもが毎日学習者用端末・タブレットを持ち帰るシステムを構築し、授業と家庭学習で活用できるようにした。今後も、ICTの活用に積極的に取り組み、子どもの学習を充実させることが課題である。

令和3年度学校協議会において、保護者や教職員にとって過度な負担がなく、それぞれが健康であることが「子どもにとってよりよい環境」ということについて了解を得られた。教職員の働き方改革とともに保護者の負担軽減という視点で、学校行事を中心に教育活動を見直し始めている。この見直しを継続し、保護者、教職員に過度な負担のないように教育活動を工夫し実践していくことが課題である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査及び校内調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
(R3 学力調査 53.2%、校内調査 73.4%)
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査及び校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
(R3 学力調査 74.4.%、校内調査 74.4.%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上(1)】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率 5 割以下の児童を、令和 3 年度より 5 ポイント減少させる。
(R3 学力調査 5 割以下 国語 27/59 算数 18/59)
- 令和 7 年度の小学校経年調査及び校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
(R3 経年調査 64.2%、校内調査―)

【未来を切り拓く学力・体力の向上(2)】

- 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び校内調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を 83%以上にする。
(R3 全運調査男子 78.8%女子 46.9% 校内調査（男女）80.1%)
- 規則正しい生活を身に付けている児童の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする児童の割合及び校内調査（保護者）を令和 7 年度調査において 80%以上にする。
(R3 学力調査 朝食 88.7% 就寝 55%、起床 79.2%、
R3 校内調査（保護者）―)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 100%以上にする。
(R3 校内調査―)
- ゆとりの日を週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 5 日以上、冬季休業期間中は 3 日以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小学校）

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 83%以上にする。
(R3 学力調査 80.8% R4 学力調査 84.6%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R3 1/396 R4 1/400)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(R3 0人 R4 0人)

学校の年度目標

- ① 本年度の校内調査（児童）の「学校に行くのは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
(R3 校内調査 73.4% R4 校内調査 77.6%)
- ② 本年度の校内調査（児童）の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。
(R3 校内調査 74.4% R4 校内調査 79.4%)

未来を切り拓く学力・体力の向上(1)

全市共通目標（小学校）

- 小学校経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。
(R3 経年調査 64.2% R4 経年調査 43.0%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。
(R3 全国比国語 3年 0.87 4年 0.76 5年 0.81 R4 全国比国語 4年 0.87 5年 0.76 6年 0.78)
(R3 全国比算数 3年 0.89 4年 0.75 5年 0.77 R4 全国比算数 4年 0.89 5年 0.75 6年 0.78)
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。(R3 経年調査 82.5% R4 経年調査 80.2%)

学校の年度目標

- ① 校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。
(R4 校内調査 R4 新設 77.0%)
- ② 本年度の校内調査（児童）の「どんなことでも、最後まであきらめずにやり遂げようとしている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。
(R3 校内調査 84.9% R4 校内調査 87.1%)
- ③ 本年度の校内調査（児童）の「学ぶことが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
(R3 校内調査 77% R4 校内調査 77.6%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上(2)】

全市共通目標（小学校）

- 本年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を 60%以上にする。
(R3 全運調査男子 78.8%女子 46.9% 校内調査（男女） 80.1%)
(R4 校内調査（男女） 69.2%)

学校の年度目標

- 本年度の校内調査（保護者）の「家庭では早寝 早起き 朝ごはんの習慣が身につくように努めている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を 70%以上にする。
(R3 校内調査（保護者） — R4 新設 84.0%)
- 本年度の校内調査（児童）の「手洗い・うがいをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
(R3 校内調査（児童） — R4 新設 92.7%)
- 本年度の校内調査（児童）の「給食を残さないように食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。
(R3 校内調査（児童） — R4 新設 91.0%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小学校）

- 本年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 70%以上にする。(R3 校内調査—R4 校内調査 87.0%)
- 本年度、ゆとりの日を週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 5 日以上、冬季休業期間中は 3 日以上設定する。
(R4 ゆとりの日週 1 回)
(R4 学校閉庁日夏季 5 日・冬季 3 日)

学校の年度目標

- 本年度の校内調査において、児童一人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和 3 年度より 1 冊増加する。
(R3 23 冊 R4 21.5)

3 本年度の自己評価結果の総括

教職員それぞれの強みを生かし「チーム喜連西」となって、関係諸機関等との連携を図りながら、コロナ禍における教育活動を工夫し、カリキュラム・マネジメントを推進してきた。また本校は、平成 30 年度より、大阪教育大学・大阪市教育委員会と連携し、「エビデンスベースの学校改革（行動支援・学業支援）」に継続して取り組んできた。その中で、全教職員で共通理解し、学校全体で多層支援モデルを基盤とした指導（SWPBS）を実践し、児童の基礎的・基本的な学力向上をめざすことができた。また、本年度より、研究教科を国語科に設定し、全教員で「わかる・たのしい」授業をめざし、計画通りの実施と、授業改善を図ることができたのも大きな成果である。

安全・安心な教育の推進においては、校内調査の「自分にはよいところがある」の質問に対して、肯定的に回答する児童の割合が 79.4%で昨年度より 5.0%向上し、SWPBS の実践を継続してきた成果だといえる。学力面は、昨年同様に課題は多く、経年調査においても本年度も大きな向上は見られなく、今後も引き続き学力向上をめざした取組を継続していく必要がある。

次年度も「エビデンスベースの学校改革（行動支援・学業支援）」と校内研究を核として学校教育を推進し、安全・安心な社会の実現と、基礎的・基本的な学力・体力の向上をめざす。

大阪市立喜連西小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 【安全・安心な教育の推進】 年度目標 | 達成 状況 |
|--|-----------|
| <p>全市共通目標（小学校）</p> <p>○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。 (R3 学力調査 80.8% R4 学力調査 84.6%)</p> <p>○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R3 1/396 R4 1/400)</p> <p>○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R3 0人 R4 0人)</p> <p>学校の年度目標</p> <p>① 本年度の校内調査（児童）の「学校に行くのは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 (R3 校内調査 73.4% R4 校内調査 77.6%)</p> <p>② 本年度の校内調査（児童）の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 (R3 校内調査 74.4% R4 校内調査 79.4%)</p> | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進 捗 状況 |
| <p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>いじめや暴力行為・不登校傾向が見られる児童の実態を把握し、学校内外の連携をしながら、課題解決に向けた取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標 ・全教職員の共通理解を図るとともに手立てを考え実践を進めるために、 月1回の児童理解のためのネットワーク（児童の生活面に関する意見交換の場） 月に1回以上の生活指導部会、いじめ対策委員会を開く。 (R4 全11回)</p> | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>安全に関する訓練・指導を継続したり、校内の安全点検を定期的実施したりする。</p> <hr/> <p>指標 ・安全に関する訓練や指導を年3回以上、安全点検を月1回行い、安全で安心できる教育環境を整える。 (R4 訓練4回 安全点検11回)</p> | A |
| <p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>一人一人の児童が力を発揮し、その良さを認め合える集団づくりをめざす。</p> <hr/> <p>指標 ・学級経営を充実させるため、毎学期、学級目標の実現に向けて係、当番等の役割分担。週に2回以上それぞれのよさについて伝える機会を設ける。 ・学校行事、クラブ活動、委員会活動、学級活動の年間指導時間の内、児童にとって主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の時間の割合を50%以上にする。 (校内調査) ・年度末の校内調査（児童）における「友だちのがんばりやよさを見つけることができた」に対して、肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。 (R4 新設 88%)</p> | B |
| <p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>インクルーシブ教育推進のために、個別の支援・指導計画を作成し、活用を図りつつ、誰もが安心して過ごせる学級や授業づくり、学習・生活環境整備に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 ・学期に1回個別の教育支援計画や個別の指導計画を更新し、実践する。 ・学期に1回以上特別支援教育推進委員会等を実施し、児童の実態にあった支援や指導に生かす。 (R4 学期1回以上)</p> | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

学校の年度目標

- ① 校内調査（児童）の「学校に行くのは楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77.6% にすることができた。
- ② 校内調査（児童）の「自分には良いところがある」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 79.4% にすることができた。
ポジティブフィードバックシールやカードを活用し、児童の自己肯定感を高める取り組みを 1 年間継続して行うことができた。

取組内容①

月に 1 回生活指導部会、いじめ対策委員会を開き、児童の生活面に関する意見交換を行うことで、児童の実態を把握し、課題解決に向けて取り組むことができた。

いじめに関するアンケートを学期に 1 回実施し、内容を管理職に報告し、必要に応じて個別に面談する等、適切に対応することができた。

取組内容②

安全に関する訓練や指導を年 3 回以上計画通り行った。また、今年度は、保護者への引き渡し訓練も 1 学期に実施することができた。

安全点検を月に 1 回行い、安全で安心できる教育環境を整えていくことができた。

取組内容③

各学級で週に 2 回以上友だちのよいところを見つける機会を設けて、互いに認め合う時間をつくった。また、校内の研究の視点に合わせて「主体的・対話的」な授業を目指し、計画・実践することができた。

校内調査（児童）の「友だちのがんばりの良さを見つけることができた」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 88% にすることができた。

取組内容④

学期に 1 回以上、個別の教育支援計画、個別の指導計画を更新し、誰もが安心して過ごせる学級や授業づくり、学習・生活環境整備に取り組んだ。また、学期に 1 回以上特別支援教育推進委員会を実施することで、児童の実態を把握し支援や指導に生かすことができた。

（今後への改善点）

上記の指標について、今後も継続しています。

②の安全に関する訓練の「不審者対応」について、教職員の訓練があってもよいのではという意見があった。

大阪市立喜連西小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 【未来を切り拓く学力・体力の向上(1)】 | | 年度目標 | 達成 状況 |
|---|--|------|-----------|
| <div>全市共通目標（小学校）</div> <div>○ 小学校経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 65% 以上にする。 (R3 経年調査 64.2% R4 経年調査 43.0%)</div> <div>○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.03 ポイント向上させる。 (R3 全国比国語 3 年 0.87 4 年 0.76 5 年 0.81 R4 全国比国語 4 年 0.87 5 年 0.76 6 年 0.78) (R3 全国比算数 3 年 0.89 4 年 0.75 5 年 0.77 R4 全国比算数 4 年 0.89 5 年 0.75 6 年 0.78)</div> <div>○ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83%以上にする。 (R3 経年調査 82.5% R4 経年調査 80.2%)</div> <div>学校の年度目標</div> <div>① 校内調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。 (R4 新設 77.0%)</div> <div>② 本年度の校内調査（児童）の「どんなことでも、最後まであきらめずにやり遂げようとしている。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80%以上にする。 (R3 校内調査 84.9% R4 校内調査 87.1%)</div> <div>③ 本年度の校内調査（児童）の「学ぶことが楽しい」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 (R3 校内調査 77% R4 校内調査 77.6%)</div> | | | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | | 進 捗 状況 |
| <div>取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>国語科を中心に主体的対話的で深い学びについて研修し、全教育活動で実践する。</div> <div>指標 ・学校全体で主体的対話的で深い学びに向けた研修を進める。</div> <div>国語科研究指導案検討会 6 回、研究授業（討議会含む）6 回、 一人一授業実施率 90%以上 (R4 100%)</div> | | | B |
| <div>取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>全教育活動で、自分の考えを深めたり広げたりする話し合い活動を意図的に取り入れる。</div> <div>指標 ・本年度の校内調査（児童）の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広めたりすることができている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。 (R4 新設 77.0%)</div> | | | B |
| <div>取組内容③【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</div> <div>学級担任と習熟度担当、専科担当、T2 担当が連携して、一人ひとりに応じた指導を最大限実施する。</div> <div>指標 ・本年度の校内調査（児童）の「学ぶことが楽しい」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 (R3 校内調査 77% R4 校内調査 45.0%)</div> | | | C |

全市共通目標(小学校)

- 最も肯定的に回答する児童の割合が42.96%だったので、達成できなかった。
- 前年度と比較すると、4・5年生は変化がなく、6年生は国語が0.03ポイント下がり、算数が0.01ポイント上がった。結果、0.03ポイント向上は達成できなかった。
- 肯定的に回答する児童の割合が80.2%だったので、達成できなかった。

学校の年度目標

- ①最も肯定的に回答する児童の割合を77%にすることができ、達成できた。
- ②肯定的に回答する児童の割合を87.1%にすることができ、達成できた。
- ③肯定的に回答する児童の割合を77.6%にすることができ、達成できた。

取組内容

- ①指導案検討会・研究授業共に計画通り6回実施し、研修を計画的に行った。その結果、「主体的対話的」な授業を意識し、全教育活動で実施することができたが、児童の思考が深まるような「深い学び」につなげることができなかった。
- ②全教育活動で、ペアやグループでの交流を通して、自分の考えを深めたり広めたりすることができた。特に研究教科でもある国語科の授業を中心に取り入れたことで、自分の意見を伝えたり、相手の話を聞いたりする機会が増えた。その結果、肯定的に回答する児童の割合を77%にすることができ、達成できた。
- ③学級担任と習熟度担当、専科担当、特別支援担当が連携し、週に一度以上学年研修を行ったり、普段から情報共有を行ったりすることにより、一人ひとりに応じた指導を最大限実施した。しかしながら、学習に苦手意識を持っている児童は多く、最も肯定的に回答する児童の割合は45%だったので、達成できなかった。

大阪市立喜連西小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| | | |
|--|------|----------|
| 【未来を切り拓く学力・体力の向上(2)】 | 年度目標 | 達成 状況 |
| 市共通目標（小学校） ○ 本年度の小学校学力経年調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」に対して、最も肯定的に答える児童の割合を 81%以上にする。 （R3 全運調査男子 78.8%女子 46.9% 校内調査（男女） 80.1%） （R4 校内調査（男女） 69.2%） 学校の年度目標 ○ 本年度の校内調査（保護者）の「家庭では早寝 早起き 朝ごはんの習慣が身につくように努めている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を 70%以上にする。 （R3 校内調査（保護者） — R4 新設 84.0%） ○ 本年度の校内調査（児童）の「手洗い・うがいをしている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 （R3 校内調査（児童） — R4 新設 92.7%） ○ 本年度の校内調査（児童）の「給食を残さないように食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。 （R3 校内調査（児童） — R4 新設 91.0%） | | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | |
| 取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 子どもの「手洗い・うがい」「早寝・早起き」「朝ごはん」についての意識を高める。 ----- 指標 ・年に 3 回、チェックシートを活用した健康週間を実施する。 （R4 年 3 回） ・定期検診時等における養護教諭による保健指導を年間各学級 1 回以上行う。 （R4 各学級 1 回） | | A |
| 取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 保護者の「手洗い・うがい」「早寝・早起き」「朝ごはん」についての意識を高める。 ----- 指標 ・月 1 回、保護者の意識を啓発する保健だよりの発行 （R4 月 1 回） | | B |
| 取組内容③【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 食育を充実し、食と健康についての意識を向上させる。 ----- 指標 ・月 1 回食育の日を設定し、全校で食育に関する指導を実施する。 （R4 月 1 回） | | A |
| 取組内容④【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 体育指導を充実し、運動と健康についての意識を向上させる。 ----- 指標 ・昨年度と比べ体育的行事の内容を 2 点以上改善する。 ・運動場、体育館の体育倉庫の整備を年間 3 回以上行う。 ・児童の運動に対する関心を高めるため、「新体力テスト」「なわとびタイム」を実施する。 （R4 行事改善 2 点 倉庫整備 3 回） | | B |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①

定期健診時等における養護教諭による生活習慣についての保健指導を各学級 1 回以上行った。また、保健委員会による健康調べの結果をランキング形式で周知したり、健康に関するチェックシートを活用した健康週間を実施したりし振り返ることで、子どもの「手洗い・うがい」「早寝・早起き」「朝ごはん」についての意識が高まった。その結果、校内調査（児童）の「手洗い・うがいをしている」に対して肯定的に回答する児童の割合が 92.7%になった。

取り組み内容②

月 1 回、保護者の意識を啓発する保健だよりを発行したり、懇談会等で保護者に声かけたりすることで、保護者の「手洗い・うがい」「早寝・早起き」「朝ごはん」についての意識が高まった。その結果、校内調査（保護者）の「家庭では早寝 早起き 朝ごはんの習慣が身につくように努めている」に対して肯定的な回答が 84%になった。

取り組み内容③

月に 1 度の食育の日には、給食委員会の児童が食に関する内容を全校児童に発表したり、学級でも給食カレンダーや給食だよりを活用して指導したりすることで、児童の食と健康についての意識が向上した。その結果、残食率が減少し、校内調査（児童）「給食を残さないように食べている」に対して肯定的に回答する児童の割合が 91%になった。

取り組み内容④

運動会では、全校児童が一緒に参加できるように改善し、実施できた。マラソン週間についても、感染症対策を講じることで実施できた。体育倉庫の整備を年間 3 回以上行った。「新体力テスト」「なわとびタイム」とともに実施できた。

大阪市立喜連西小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 【学びを支える教育環境の充実】 | | 年度目標 | 達成 状況 |
|---|--|------|-----------|
| <div>全市共通目標（小学校）</div> <div>○ 本年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対し て、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 70%以上にする。 (R4 新設 87.0%)</div> <div>○ 本年度、ゆとりの日を週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 5 日以上、冬季休業期間中は 3 日以上設定する。 (R4 ゆとりの日週 1 回)</div> <div>(R4 学校閉庁日夏季 5 日・冬季 3 日)</div> | | | B |
| <div>学校の年度目標</div> <div>○ 本年度の校内調査において、児童一人当たりの学校図書館年間貸出冊数を、令和 3 年 度より 1 冊増加させる。 (R3 23 冊)</div> <div>(R4 21.5 冊)</div> | | | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | | 進 捗 状況 |
| <div>取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 学習者用端末、大型モニターなどの ICT 機器を活用した指導を工夫し実践する。</div> <div>指標 ・大型モニターなどの ICT 機器を活用した授業を週 2 回以上設定した学級を 80% 以上にする。 (R4 ほぼ毎日)</div> <div>・本年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対 して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を 70%以上にする。</div> <div>(R3 校内調査—R4 87.0%)</div> | | | B |
| <div>取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日や学校閉庁日の設定、学校行事実施時間の短縮等により、働き方改革を推進 する。</div> <div>指標 ・ゆとりの日を週 1 回設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は 5 日以 上、冬季休業期間中は 3 日以上設定する。 (R4 ゆとりの日週 1 回)</div> <div>(R4 学校閉庁日夏季 5 日・冬季 3 日)</div> | | | |
| <div>取組内容③【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 読書指導、学校図書館の運営などを工夫して、読書への関心を高める。</div> <div>指標 ・本年度の校内調査（児童）の「本をよく読んでいます。読むようになっている」に 対して、肯定的に回答する児童の割合を 60%以上にする。</div> <div>(R3 校内調査 69.5% R4 校内調査 63.1%)</div> | | | B |
| <div>取組内容④【基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 ・保護者・地域等への情報発信、保護者・地域等と連携した行事や授業を工夫する。</div> <div>指標 ・PTA と連携し、メール通信のシステムを導入する。</div> <div>・昔あそび、防災訓練など地域の方を GT とした授業など地域と連携した行事や授 業を年間 1 回以上実施する。 (R4 年 1 回実施)</div> | | | |

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標（小学校）

- 校内調査「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答えた児童は 87% で目標を達成することができた。
- ゆとりの日を週 1 回設定した。また、学校閉庁日については、夏季休業期間中は連続 5 日間、冬季休業中は 3 日間設定し、目標を達成することができた。

学校の年度目標

- 令和 4 年度の児童一人当たりの学校図書館年間貸出冊数は 21.5 冊（2/10 現在）であった。目標値に届いていないが、年度末まで「図書館開放」や「並行読書」等の読書への関心を高める取り組みを継続することで、目標値を達成できる見込みである。

取組内容①

- ・ ほぼ毎日の授業で大型モニター等の ICT 機器を活用した。
- ・ 本年度の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と答える児童の割合は 87% だった。毎日の「心の天気」の入力に取り組む等、学習者用端末の使用頻度も向上している。学習者用端末の置き場所や朝登校したら保管庫から取り出し手元に置いておく等の工夫をし、有効に活用する方法を今後も模索していく。

取組内容②

- ・ 指標通り設定、実行することができた。
- ・ ゆとりの日があることで早く帰ることができ、ライフワークバランスが整った。
- ・ 保護者アンケートを Google フォームなどで回答・集約したり、職員連絡をデジタル化したりする等の工夫ができるかもしれない。

取組内容③

- ・ 国語科の研究を進める中で平野図書館や学校図書館を活用し、並行読書に取り組んだ。教室や廊下に貸し出しコーナーを設置することで、教科書教材に関連する本を多く読めていた。
- ・ 学校図書館司書や図書委員の読み聞かせの活動や図書館開放の機会を増やしたことにより、図書室の利用が増えた。
- ・ 本年度の校内調査（児童）の「本をよく読んでいます。読むようになっている」に対して、肯定的に回答する児童の割合は 63.1% だった。前年度より下がったが、目標の 60% 以上は達成した。学級文庫の見直しや、学期ごとに学級文庫をローテーションする等し、読書への関心を高める工夫をしていく。

取組内容④

- ・ 地域の方を GT として迎え、1 年生の昔遊び体験の授業を実施することができた。打ち合わせ会を開いたり、地域の方々がおもちゃの選別や補充をしてくださったり、綿密に計画を立てて実施することができた。授業後、地域の方々との別れを惜しむ児童もいた。